

2014年3月期 決算概要（連結）

1. 業績の概況

当連結会計年度（自 2013年4月1日 至 2014年3月31日）（単位：億円）

	2013年度 (第9期) A	2012年度 (第8期) B	増減		2014年度 (第10期) 計画 ^{※2}
			金額 A-B	% A/B*100	
営業収益	6,354	16,810	▲10,455	37.8	16,555
高速道路事業	5,825	16,261	▲10,435	35.8	16,005
(料金収入)	5,114	4,973	140	102.8	5,885
(道路資産完成高等)	711	11,287	▲10,576	6.3	10,120
関連事業	529	549	▲19	96.4	550
(休憩所事業)	402	420	▲18	95.7	373
(その他)	127	129	▲1	98.5	177
営業費用	6,334	16,746	▲10,412	37.8	16,525
高速道路事業	5,861	16,260	▲10,399	36.0	16,035
(道路資産賃借料)	3,605	3,502	103	103.0	4,106
(道路資産完成原価)	^{※3} 744	11,279	▲10,534	6.6	^{※3} 10,160
(管理費用等)	1,510	1,479	31	102.1	1,769
関連事業	473	485	▲11	97.5	490
(休憩所事業)	345	354	▲8	97.5	326
(その他)	128	131	▲3	97.6	164
営業利益	20	63	▲43	31.9	30
高速道路事業	▲35	0	▲35	-	▲30
関連事業	55	63	▲8	87.4	60
経常利益	34	80	▲46	42.7	20
当期純利益	12	43	▲31	28.3	13

※1 実績金額は、億円未満の端数を切り捨てて表示しております。

※2 2014年度計画は、2014年3月31日付けで国土交通大臣から認可された「平成26事業年度 事業計画」を前提としております。実際の業績は、さまざまな要素により、上記計画数値と異なる可能性があることをご承知おきください。

※3 2013年度及び2014年度計画の欄の高速道路事業営業費用（道路資産完成原価）には、高速道路に係る利益剰余金を活用して実施した事業（約40億円）が含まれています。

（注）当社グループは、経営組織の形態と事業の特性に基づいて、事業を以下のように区分しています。

事業	業務内容	
高速道路事業	建設事業	高速道路の新設、改築
	保全・サービス事業	高速道路の維持、修繕、災害復旧その他の管理
関連事業	休憩所事業	高速道路内におけるサービスエリアの建設、管理及び運営
	その他（関連）事業	受託事業、トラックターミナル事業、占用施設活用事業、物販事業、旅行事業、海外事業、カードサービス事業等

2. トピックス

(1) 高速道路事業

(実施した施策)

- ・安全性向上3カ年計画
トンネル天井板や換気ダクトなど、道路上に設置された構造物の撤去・移設又は二重の安全対策、橋梁床版取替えなど道路構造物の耐久性向上を進めました。
- ・ネットワークの整備
一般国道468号（首都圏中央連絡自動車道）
茅ヶ崎ジャンクション～寒川北インターチェンジ間5km 2013年4月14日開通

(通期業績)

- ・営業収益は5,825億円（前年同期比1兆435億円減^{*}）となりました。
このうち、通行料金収入は5,114億円（同140億円増）でした。
交通量は堅調に推移し、1日あたりの取扱通行台数は194万台（同4%増）でした。
- ・営業費用は5,861億円（同1兆399億円減^{*}）となりました。
道路資産完成原価には、事業に要した費用にかかる負債を独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構による債務引受の対象とせず、安全性向上積立金（目的積立金）を取り崩して処理する予定の費用（中央道恵那山トンネルの天井板撤去に係る安全対策等約40億円分）が含まれています。このため、道路資産完成原価が道路資産完成高を約40億円上回っています。
また、道路資産賃借料及び道路資産完成原価以外の管理費用等は1,510億円（同31億円増）となりました。管理費用等の増加は、主に、保全点検費用及び雪氷対策費用が増加したことによるものです。
- ・上記の結果、連結では初の営業損失35億円を計上しました。

^{*} 営業収益及び営業費用がそれぞれ前年同期比約1兆円減少していますが、これは、2013年度は2012年度と比較して、新東名高速道路などの大型開通がなかったことによります。

(2) 関連事業

(実施した施策)

- ・個性豊かで魅力あふれるサービスエリアの創造
東名高速道路 EXPASA 富士川（上り）や伊勢自動車道 嬉野パーキングエリア（上り）など既存のサービスエリアの一部について、リニューアル工事を行い、収益力の向上に取り組みました。
また、東名高速道路 EXPASA 足柄（下り）では、テレビ局とのタイアップイベントを開催するなど、新しい魅力を高める売り場づくりに取り組みました。
- ・サービスエリアの商業施設の安全対策
商業施設内に設置された高所設置物の落下防止対策や天井点検口の追加など、商業施設の安全対策に取り組みました。

(通期業績)

- ・営業収益は529億円（前年同期比19億円減）となりました。
これは、新東名高速道路の開通効果が一段落したこと、ガソリン事業の運営スキーム^{*}の変更などによるものです。
- ・営業費用は473億円（同11億円減）となりました。
これは、新東名高速道路の租税公課や商業施設の安全対策などの費用が増加した一方、ガソリン事業の運営スキーム^{*}の変更を行ったことによるものです。
- ・上記の結果、営業利益は55億円（同8億円減）となりました。

^{*} ガソリン事業の一部運営箇所について、当社の子会社である中日本エクススの直営運営からテナント運営に移行したこと。